

5-8					
主題	ユニットケアを進める為に今できる事とは				
副題	マイナス思考を打ち砕け				
キーワード1	ユニットケア	キーワード2	なし	研究(実践)期間	12ヶ月

法人名	社会福祉法人 泉陽会		
事業所名	特別養護老人ホーム 新町光陽苑		
発表者(職種)	照喜名竜彦(リーダー介護士)		
共同研究(実践)者	各ユニットリーダー介護士		

電話	03-5855-1185	FAX	03-5855-1180
----	--------------	-----	--------------

今回発表の事業所やサービスの紹介	社会福祉法人泉陽会が母体である新町光陽苑は平成 25 年 4 月に開設。ユニット型特養 66 床・地域密着型特養 24 床・ショートステイ 10 床の他、デイサービスを展開し、北区からの委託事業として地域包括支援センターも併設している。
------------------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

ユニットケアの推進が叫ばれる昨今「ユニットケアとは何か?」「どうすれば実現できるのか?」といった声が、職員の中から挙がってきた。その中で、様々な取り組みを行ってきたが、いつしか「人員不足で思うようなことが出来ない」「業務に追われてしまいユニットケアを進めていくことが出来ない」といったマイナスな思いが広がってきていた。

そんな中、ご家族より「人が少なく大変そう」「毎日することがなくて退屈しているのではないか」といったご意見があった。職員の間で挙がっていた「マイナス」な思いが、ご家族によって指摘されることとなった。このままの状態ではユニットケアを進めていくことはおろか、入居者の生活の質の向上にも影響が出てしまうと考え、再度今までの取り組みを見直した上で、これから何が出来るのか、について研究をしていくこととなった。

- 《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》**
- ①自身のユニットで行ってきたことを見直すことによって、ユニットケアとは何か、どうすれば進めていけるのか、を考えるきっかけになり、更に次の取り組みを実行していくことが出来る。
 - ②他のユニットの取り組みを知ることによって、自身のユニットでも取り入れるヒントを得て更なる取り組みにつなげていくことが出来る。
 - ③ご家族に直接ユニットでの取り組みを伝えることによって、ご家族が見えていなかった部分も伝えることが出来て、ご家族の満足度や安心感を得ることに繋がっていく。
 - ④取り組みを発表することによって、各ユニットの職員の自信にも繋がり、モチベーションの向上や意識の向上に繋がる。

《3. 具体的な取り組みの内容》

① 取り組み期間

平成 27 年 8 月～平成 28 年 8 月現在

② 取り組み内容と手順

- ・ 職員への周知…全職員対象に目的・取り組み方・内容についての説明回を行う。
- ・ 取り組みの振り返りと検討…今までユニットで取り組んできた内容の精査
- ・ 取り組みの実施…ユニット毎で個別のユニットケア向上を目指した研究と取り組みを実施
- ・ 発表方法の確認…各フロアより 1 題目の事例を発表する
発表用の書式の作成
パワーポイントの作成
発表原稿の作成
- ・ プレ発表…ご家族に発表する前段階で職員に発表する機会を設ける
- ・ 家族懇談会（平成 28 年 3 月開催）発表

③ 発表後の職員の意識に関するアンケートを実施（5 月に実施・15 名職員対象・15 名配布／15 名回収・回収率 100%）

④ 次回の家族懇談会（平成 29 年 3 月開催予定）に向けての取り組みの検討（月に 1 回開催しているリーダー会議で取り組みの内容を検討し実施の進捗状況を確認する。）

《4. 取り組みの結果》

今回の取り組みを通じて、ご家族からは「こんな取り組みをしていたなんて知らなかった」「色々なことをしていただいて感謝しております」等のお言葉を頂いた。

また、職員も取り組み内容を発表することによって「入居者のためにもっと色々なことに取り組みたい」等、自信と意欲を得ることができた。

取り組みの前はあきらめることが多かったマイナス思考が取り組み後は、あきらめるのではなくどうしたら出来るかを考えて行動す

るプラス思考となり職員の意識も変化していった。

《5. 考察、まとめ》

今回の研究は、「ユニットケアを進めていくためには」を見つめ直すことから始まった取り組みであった。ユニットケアを進めていくことが、様々な要因によって「出来ない」のではなく、どの様にしたら「出来る」ようになるのかを意識して実行していくことが出来るようになったことが、今回の研究で得たものであると考えられる。

今後も立ち止まるのではなく、家族懇談会を各ユニットの研究と取り組み成果の発表の場として継続的に行い施設全体のユニットケアの推進と向上を目指して研究を継続していきたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

「ユニットケアで暮らしをつくる」
秋葉都子編著 中央法規

《8. 提案と発信》

一つの取り組みを行う、という事は大きな力と労力が必要である。利用者やご家族の満足度や安心感を得るためには、一度だけの試みではなく継続して行っていかなければならない。その結果、安心感や信頼を得られると考えられる。人材不足の中で出来ることは限られてしまうかもしれないが、その中でも出来る事を追求していく事が、必要になってくる。